

Q どんなときに「なりたち」を指導したらよいでしょうか。

A 「なりたち」は、漢字に興味をもたせたり、その漢字が特定の意味を持っていること（「日」と「火」のちがいを示したりする時に有効です。

「なりたち」は、ある事、ある物を文字化する先人のくふうや知恵を学ぶことにもなるので興味がつきません。ショートストーリーを読むかのようなのです。

しかし、すべての漢字については、できないし、必要ありません。授業で扱うと、時間がかかりすぎたり、必要以上にくわしくなったりします。

また、多くは、字源に異説があり、そのうえ、現代の字体や意義への変遷過程に複雑なものがあり、理解が難しい場合があります。



例えば「石」は、解字が辞典によって異なります。

代表的なものでも、

- a 厂《がけ》の下に口型の《いし》のあるさまを描いた象形文字
- b 厂《がけ》と、口《いし》とを合わせて《いしころ》を表している会意文字
- c 意味を示す《いし》の形の〈口〉と、[シャク]という音を示す厂がおすびついた形声文字

などの説にわかれます。

また、「体」は「體」,「昼」は「晝」,「台」は「臺」,「前」は「前」からなど複雑な字体の変遷過程があります。

このようなことから、漢字の意味や使いかた、字体について、他の方法—たとえば実物や絵・写真,実演,類字との異同,使いかたなどの方法—より適切な場合に「なりたち」指導が採用されます。

[付記]

以上は、主に小学校を対象にした原則的な考えです。子どものための指導ですから、そのときのクラスの実態に合わせて実践してください。

[参考]

★『日本の教育はこれでよいのかな』(今日 9729 さんのブログ)

2005.12.11 [『石』は、象形文字か？ 漢字の成り立ち指導の目的を考える \(紺屋富夫\)](#)